

第51期モットー

「 営業力強化！」
— 全員営業、皆でフォロー！ —

「幸せを願って」

NO.288

H 30. 7. 6(金)
(株) ユ キ
ダスキン新居浜支店
社長 小野 正師

「ありがとう、50周年！ VII」

合掌 梅雨入り後一か月が過ぎましたのに、今日も大雨警報が出るほどの予想外の天候続きです。もう間もなく梅雨明けとなりましょうが、体調管理等お気を付けてください。

6月に入り、すぐ50周年祈念台湾旅行を行いました。参加者の感想を別紙に載せていますのでご覧ください。私はあいにく参加できませんでしたが、非日常の旅を通して学ぶことは沢山あるものです。特に海外はそうです。今回は親日国の台湾でしたので、尚更でしょう。日頃、得られにくい社会勉強と珍しい美味しい食べ物、親しい仲間との体験等、旅が心を豊かにしてくれます。

7月に入り4・5日と、大阪USJの旅もすごかったようです。私は初日だけ、新しくオープンしたダスキンミュージアムと誠心館と一緒に回りました。特に、誠心館のダスキン資料館と創業者の執務室・誠実の間や接待館・礼堂には感慨深いものがありました。

ダスキン資料館には、昭和38年の創業時からの苦難の歴史が写真と共に展示されています。私の思い出深いことは、昭和49年9月の全国第一号愛の家がオープンし創業者鈴木清一氏が来社下さった開設式のことです。当時の私は、ダスキン本社の研修働きさんでしたが、この日だけ帰らせてもらったのでしょう。ピンクのダスキン T シャツを来て、創業者をお迎えしていました。建設候補地の選定から(愛媛工場建設時も)ダスキンユキ(当時)へは、何度も足を運んで頂きました。実は、母が創業者の愛の店構想に深く関与して、よく相談されていたのです。当時もそうでしたし、お亡くなりになられる前の入院看病時も含めて、小笠原副社長(奥様)、湊秘書、平塚洋子組織員育成担当、そして母・小野由生枝(日赤卒)の4名が親しくさせて頂いてました。

奥に飾られていた、ダスキン創業10周年に行われた日本武道館での一万人記念式典(アイドルコンサートではありません)には、ユキからも10名以上のシーダーさん(当時のハーティさん)が参加しました。私は横須賀での学生でしたので、母から呼ばれて参加し、創業者の

スピーチに世の中には「こんなにすごい人がいるんだ」と奮い立つような感動を覚えました。圧巻は式典内容もそうでしたが、高級ホテルでの食べたことも見たこともないような豪勢な料理。泊まった所も、ホテルオオクラだったか帝国ホテルだったか、フカフカベットに初めての洋式トイレ、さあ皆さんどう使ったのでしょうか!?田舎のおばさん達は、夢のような体験に感動続きでした。

2階にある礼堂では、全員での記念写真。この礼堂は、一燈園のスタイルをそのまま再現し、木魚をたたきながら厳粛なおつとめをします。私は、正座の苦行でおつとめどころではありませんでしたが。

その下にある接待館にも、いろいろな記憶が蘇ります。一番は、私が20歳ころでしたか、姉の千草と義兄の小林延雄さんとの結婚式です。両家の家族のみが集まり、鈴木創業者と小笠原副社長が仲人をして下さり、得意の(笑)正座で一燈園式の質素ですが、荘厳な式でした。その床の間には「脱皮新生」、壁面には「高志低身」と書かれた商業界創始者・倉本長治先生の額が飾られていました。「脱皮」はダツスキンをもじり、新しく生まれ変わる「新生」を意味します。倉本先生は、創業の日に吹田の工場で来賓としてお越しいただき感涙の挨拶を下されたダスキン創業の恩人と言われる方です。正に、鈴木創業者は自分の身を徹底的に低く下座し、志はとてつもなく高邁な指導者でした。

私は今、50周年の大きな節目を迎え、ダスキン創業の胎動を一部分だけですが感慨深く味わわせて頂きました。私の血の中にも、17歳の感動から母の熱い血と合わせて間違いなくダスキンのDNAが脈々と流れています。鈴木創業者の理念を理解し、現実の生活・仕事に落とし込み、これからも我が人生のベースにして参ります。ダスキンの精神は、あらゆる分野に活かされています。幸せに生きていくためのバイブルと言えましょう。そういうご縁を後生大事に守って参ります。ありがたいことです。

6月号で発表しました、来年のフェアは、西条を4日間から3日間としました。西条が5月16・17・18日(木・金・土)、新居浜が22・23・24・25日(水・木・金・土)の計7日間です。ミスタードーナツも出ますよ(笑)。

来週の出雲祈念旅行が終われば、仕事と9月7日(金)の50周年祈念式典に向けてまっしぐらです。

ありがとうございました。 合掌